



2019年6月5日「奥浅草だより」第24号

渋沢栄一と車善七

吉原遊廓の裏に非人役所 車善七（くるまぜんしち）とは、代々、江戸でもっとも勢力のあった非人頭です。エタとヒニンは身分制度の底辺にありましたが、1871年の明治政府による解放令で平民に格上げされました。エタは長吏とも称し、乞食などのヒニンの上になる階層です。例えば刑場で、ヒニンが下働きをするのをエタが監督するという立場でした。浅草の非人頭を車善七といい、新吉原遊廓の裏に隣接した900坪の土地を与えられ、300軒の非人小屋がありました（1666年）。ヒニンの仕事は、物乞い・街角清掃・よそから入る乞食の取り締まり。また、病気の囚人を収容する、浅草溜を管理するのもヒニンの仕事でした。つまりヒニンは、都市の最下層の仕事を受け持っていたのです。

渋沢栄一と東京養育院 明治になり近代的政府を目指した東京府知事は、江戸時代の貧民救済資金により、行き倒れや捨て子を収容する東京養育院を設立しました。その事務長に1874年、渋沢栄一が就任。渋沢は日本資本主義の父と言われるほどの人物でしたが、同時に教育や福祉にも深い関心をもっていたのです。1890年に東京市営になると同時に院長に就任。以後、「無能力者になぜ税金を使うのか」という市議会の再三の反対を押し切って91歳で死ぬまで院長を続けました。これが発展して、現在の東京都健康長寿医療センター（板橋区）になったのです。

長谷部善七の役割 明治になり、代々続いたエタ頭・弾左衛門が弾直樹と改名したのと同じく、ヒニン頭・車善七は長谷部善七と名乗りました。さて、新しい時代になったということは、混乱の時代でもありました。人々の地域の移動が増えれば、病人・貧者・乳幼児・犯罪者なども増加します。このときに、頼りにされたのが長年の経験をもつ長谷部善七とその子分です。養育院というハードができて、底辺を埋めるソフトがあくまでも必要でした。

~~~~~

この「奥浅草だより」は『奥浅草 地図から消えた吉原と山谷』の発行後話題を拾って不定期に発行しております。

サノックスのホームページでもご覧いただけます。 <http://www.sanox.co.jp>

佐野陽子・江原晴郎・森下恒子